

新潟県魚沼市方言



新潟県方言区画図

【新潟県の方言区画】新潟県は北東から南西にかけて細長く、海を隔てて佐渡島、粟島も有している。日本海に面した平野部と、内陸の山間部を併せ持つ自然地理条件の多様な県土は、人文社会方面にもさまざまな地域差を生じさせている。方言区画もそれに応じて区別が大きい。東條操（1953）による区画においても、新潟県の方言区画は佐渡島は本土方言の西部方言、本土の方は本土方言の東部方言と分かれる。さらに下越地方は東部方言の東北方言-北奥方言に、上中越地方は東部方言の東海東山方言-越後方言に分類される。以下、大橋勝男（2003）に従い新潟県の方言分類を示す。

＜新潟県方言＞

本土方言

－（上越）－西端越方言

－西越方言

（中越）－中越方言

――中越北部方言（越後平野部方言）

――中越南部方言（魚沼丘陵部方言）

（下越）－北越方言

――岩船・北蒲原方言

――東蒲原方言

佐渡方言－大佐渡方言（北西部）

－国仲方言（中央部）

－小佐渡方言（南東部）

佐渡方言は島内地域区分に沿って、北西部の大佐渡方言、中央部の国仲方言、南東部の小佐渡方言に下位分類される。国仲方言は佐渡方言の平均的な性格、大佐渡方言もそれに準じ、小佐渡方言はやや古い性格を有する。京阪式アクセントを用いる地域である。

本土方言の上越地方は、現在の行政区画では上越市、妙高市、糸魚川市となる。西端越方言と西越方言に分かれる。西端越方言では京阪式アクセントを、西越方言は東京式アクセントを用いる。この境界は、姫川下流から西頸城郡・糸魚川市行政区画境界に沿うあたりとされる。西端越方言域は旧青海町あたりとみなされよう。

中越地方は中越方言となる。アクセントは東京式である。これは中越北部方言（越後平野部方言）と中越南部方言（魚沼丘陵部方言）に下位分類される。中越北部方言では語頭以外のダ行破裂音がラ行音に発音される特徴が耳立ち、「早く」がハヨー、「使う」がツコーとなるような形容詞のウ音便、および、au > oo の変化が盛んである。ただし、本稿で報告するように現在は形容詞ウ音便形は用いられない。中越南部方言は隣接する関東方言的特徴も表れる。また山間部という地理的特徴を反映してか地域差の著しさが指摘され、さらなる下位分類として北魚沼方言、南魚沼方言、十日町・中魚沼方言を立てることも提唱されている。

下越地方は北越方言となる。アクセントは東京式である。これは岩船・北蒲原方言と東蒲原方言に下位分類される。岩船・北蒲原方言には東北方言の北奥方言、東蒲原方言には南奥方言の特徴が表れ、隣接地域の影響がうかがえる。

【魚沼市方言について】方言区画は、中越南部方言（魚沼丘陵部方言）の北魚沼方言にあたる。旧北魚沼郡の地域で、現在の行政区画は魚沼市である。音声面では、ガ行鼻濁音が聞かれない、母音単独音節

イとエがまぎれる、アイ連母音がエー ([e:]~[e:]) に融合するなどの特徴がある。「ミレ」(見ろ)、「シレ」(しろ) などエ段形による命令形、「ミルロー」(見るだろう)、「スルロー」(するだろう) などローによる推量形などが共通語とは異なる用法として耳立つ。ナイやネーによる否定表現の使用、丁寧形や尊敬形が方言としては使われず共通語的に出現することなどが、関東方言との連続性を想起させる。

【表記について】 調査において、中間的な母音や開合音の区別や特徴的な子音などは表れなかったため、得た用例は表音的なカタカナ表記とする。

【調査概要】 本稿の記述は、新潟県北魚沼郡小出町(現魚沼市)で生育し、調査時も魚沼市に居住する高年層男性話者(1947(昭和22)年生まれ)への臨地面接調査に基づく。出典を示していない例文は全て臨地調査で得られたものである。

また『方言文法全国地図』(GAJ) 2~4(国立国語研究所 1991, 1994, 1999)の北魚沼郡堀之内町大字堀之内(地点番号 5605.57)の回答から補った形がある。この場合、語例の後に[GAI集番号-地図番号「地図タイトル」]のように示す。

[昔話][民話]は新潟県内各地で、[昔咄]は小千谷市と南・北魚沼郡、[魚沼]は魚沼市で採録された。その中の北魚沼郡広神村、北魚沼郡小出町のものから採用する。本文をそのまま引用し、筆者による共通語訳を付す。

新潟県魚沼市方言の活用表

《動詞》

活用型 動詞		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
活用形					
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル シル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ	ミレ	コイ	シレ
	禁止	カクナ	ミンナ	クンナ	シンナ
	意志	カコー	ミヨー ミロー	コヨー クロー	シヨー ショー
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル シル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カケバ	ミレバ	クレバ	セバ セーバ
派 生 類	否定	カカネー	ミネー	コネー	シネー
	丁寧	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)
	使役	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カケル △カカレル	ミレル △ミラレル	コレル △コラレル	《デキル》
	尊敬	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)
	継続	カイテイル カイテル	ミテイル ミテル	キテイル キテル	シテイル シテル
	希望	カキテー	ミテー	キテー	シテー
のだ	カクガンダ カクンダ	ミルガンダ ミルンダ	クルガンダ クルンダ	スルガンダ シルガンダ スルンダ シルンダ	

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ kag・u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das・u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac・u	タッ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom・u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir・u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)・u	カッ-タ	wをQ(促音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終 止 類	断定非過去	アカイ アケー	シズカダ	ガクセーダ
	断定過去	アカカッタ	シズカダッタ	ガクセーダッタ
	推量	アカイダロー アケーダロー アケーロー	シズカダロー	ガクセーダロー
接 続 類	連体非過去	アカイ アケー	シズカナ	《ガクセーノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカダッタ	ガクセーダッタ
	中止	アカクテ	シズカデ	ガクセーデ
	仮定	アケケレバ アケーバ	シズカダバ	ガクセーダバ
派 生 類	否定	アカクナイ アカクネー	シズカジャナイ シズカジャネー	ガクセージャナイ ガクセージャネー
	なる	アカクナル	シズカニナル シズカンナル	ガクセーニナル ガクセーニナル
	丁寧	△アケーデス	△シズカデス	△ガクセーデス
	のだ	△アケーガンダ アケーンダ	△シズカガンダ シズカナンダ	△ガクセーガンダ ガクセーナンダ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型にはa類(「書く」「居る」「死ぬ」類)動詞、一段型にはb類(「見る」「起きる」「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5段、および、音便形がある。「カク」(書く)の場合、カカ-ネー(kak・a-neR)、カキ-テー(kak・i-teR)、カク(kak-u)、カケ(kak-e)、カコー(kak・o-R)、カイ-

タ(kai-ta)など。また、語幹末子音にはk(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の活用形のうち、多段型のr語幹動詞に対応した形は、「ミル」(見る)を例にすると、断定非過去形・連体非過去形ミ-ル(mi-ru)、命令形ミ-レ(mi-re)、推量形ミ-ル=ロー(mi-ru=roR)、仮定形ミ-レバ(mi-reba)、受身形ミ-ラレル(mi-rareru)、可能形ミ-レル(mi-reru)が

あり、命令形でレ形が使われる点で共通語よりも r 語幹化が進んでいると言える。臨地面接調査では「見る」で意志形「ミロー」の形は確認されなかったが、先行研究記述を参照するに当地でも使用が推測される。「起きる」など他の一段型動詞では意志形に「オキロー」といった r 語幹化形「基幹+ロー」が使われる。

不規則な活用をする動詞として、「クル」(来る)、「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」はキ-タ (k-i-ta)、ク-ル (k-u-ru)、コ-イ (k-o-i) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の 3 段にわたる。「スル」はサ-レル (s-a-reru)、シ-タ (s-i-ta)、ス-ル (s-u-ru)、セ-バ (s-e-Rba) などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の 4 段にわたる。「スル」は意志形ショー (s:joR) のように融合によりオ段拗音も表れる。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

連体非過去形と同形で、多段一般型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。一段型動詞は「ミル」など「基幹+ル」、「来る」は「ウ段形+ル」で「クル」となる。「する」は「ウ段形+ル」の「スル」と、「イ段形+ル」の「シル」が用いられる。断定形に付く終助詞には「ゾ」「カ」などがある。

- ・テガミオ カク。(手紙を書く。)
- ・キンギョワ エサ ヤラント ハヤ シヌゾー。(金魚は餌をやらないとすぐ死ぬよ。)
- ・オラ マイインチ テレビ ミル。(私は毎日テレビを見る。)
- ・ハチャ シゴト スルカ。(今から仕事をするか。)
- ・ヒトリデ シゴトオ シル。(一人で仕事をする。)
- ・はあ、返事なんしるどこじゃない。(もう、返事なんてするところではない。)[昔話：法印と狐]
- ・はて、どうしる。(さて、どうする。)[民話：ワラとスミとマメ (一)]

くだけた形として、語末音「ル」に終助詞「ワ」が付きそれが融合した「ラー」になる形 (ru+wa→raa) が表れる。

・タローガ ナカニ イラー。(太郎が中にいるよ。)

・ハー ジキ ハナコガ ココニ クラー。(もうすぐ花子がここに来るよ。)

「居る」にあたる存在動詞は、断定非過去形と連体非過去形では「オル」が出やすい。他は「イル」を活用させた形になる。冒頭の「魚沼市方言について」に記したように当地では高年層に「イ」と「エ」の混同現象がみられるが、これを避けるために「オル」を選択すると内省する話者がある。

・タローガ ナカニ {オル/イル (〜エル)}。
(太郎が中にいる。)

断定非過去形で意志を表すことが見られる。

・マタ ココニ クルゾー。(またここに来よう。)

・ハチャ シゴト スルカ。(今から仕事をするか。)

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。

- ・テガミオ カイタ。(手紙を書いた。)
- ・キンギョガ シンダ。(金魚が死んだ。)
- ・キンナ テレビオ ミタ。(昨日テレビを見た。)
- ・サッキマデ タローガ イタ。(さっきまで太郎がいた。)
- ・キンナ ハナコガ ココニ キタ。(昨日、花子がここに来た。)
- ・キンナ シゴトオ シタ。(昨日、仕事をした。)

〈命令形〉

多段型動詞では「カケ」「シネ」などエ段形のもとに、「カケー」のようなエ段長音形も使用する。一段型動詞では「ミレ」のようにエ段形になる。「する」はイ段型「シ」に「レ」を付した「シレ」となる。「来る」では不規則な「コイ」になる。命令形に付く終助詞には「ヤ」がある。

・ハヤク テガミオ {カケ/カケー/カケヤ}。
(早く手紙を {書け/書けよ}。)

・マイインチ ニュースオ {ミレ/ミレヤ}。(毎日ニュースを {見ろ/見ろよ}。)

・シバラク ココニ イレヤ。(しばらくここにいろよ。)

・サッサト シゴト {シレ/シレヤ}。(早く

仕事を {しろ／しろよ}。)

- ・イマカラ ココニ {コイ／コイヤー}。(今からここに {来い／来いよ}。)
- ・こら、市兵衛、繩をさげれ。(こら、市兵衛、繩を下げろ。)[民話：サバ売り]
- ・そうか、火のかんさまが、木のから戸にはいつて寝れってか。(そうか、火の神様が、木の空櫃に入って寝ると言うか。)[民話：サバ売り]

「～なさい」にあたる丁寧な命令形は、出現はするが少なく、共通語的な形とみなされる。通常は非丁寧の形が使われる。

- ・ハヤク テガミオ カキナサイ。(早く手紙を書きなさい。)

〈禁止形〉

多段型動詞では、ウ段形に「ナ」を付ける。

- ・キッタネー ジオ カクナ。(汚い字を書くな。)
- ・ゼツタイニ シヌナ。(絶対に死ぬな。)

断定非過去形の語末音が「ル」になる一段型動詞と、「来る」(クル)では「ル」を撥音「ン」に変化させ「ナ」を後接させる。

- ・クダラン バングミオ ミンナ。(くだらない番組を見るな。)
- ・{コング／コググ} サムイ トコニ イツマデモ インナヤ。(こんな寒いところについてまでもいるなよ。)
- ・アシタワ ココニ クンナ。(明日はここに来るな。)

「する」ではイ段型「シ」に撥音「ン」と禁止助辞「ナ」を後接させた形になる。当地では「する」の断定非過去形に「シル」がありこれをもとに生じている語形と推測される。

- ・ソッケン コト シンナ。(そんなことをするな。)

〈意志形〉

多段型動詞は「カコー」「シノー」などオ段長音形となる。一段型動詞は基幹に「ヨー」が後接する。

- ・ヒトリデ テガミオ カコー。(一人で手紙を書こう。)
- ・ハー シノー。(もう死のう。)
- ・イマカラ テレビオ ミヨー。(今からテレビを見よう。)

- ・モー チット ココニ イヨー。(しばらくここにいよう。)

一段型動詞では、基幹に「ロー」が後接した形もある。

- ・オキロー [GAJ3-106「起きよう (意志形)」]
- ・アケロー [GAJ3-107「開けよう (意志形)」]
- ・ネロー [GAJ3-108「寝よう (意志形)」]

臨地面接調査では「見る」の意志形に「ミロー」の形は確認されなかったが、先行研究記述を参照するに当地でも使用が推測される。

「来る」ではオ段型「コ」に「ヨー」が後接する「コヨー」と、ウ段型「ク」に「ロー」が後接する「クロー」がある。

- ・コヨー／クロー [GAJ3-110「来る (意志形)」]

「する」ではイ段形「シ」に「ヨー」が後接する「シヨー」、またその縮約形と推測される「ショー」が使われる。

- ・ハー シゴトオ {シヨー／ショー (ヤ)}。(もう仕事を {しよう／しようか}。)

・いや、おらみたいな、きったねえばさ、お茶持っていったって、どうしょうばの。(いや、私みたいな、汚い婆が、お茶を持っていったって、どうしようか。)[昔話：おっぱの皮]意志表現に断定非過去形を用いることも見られる。(断定非過去形)も参照のこと。

- ・マタ ココニ クルゾー。(またここに来よう。)
- ・ハチャ シゴト スルカ。(今から仕事をするか。)

〈推量形〉

推量形は二つある。一つは「カクダロー」など「断定非過去形+ダロー」、もう一つは「カクロー」など「断定非過去形+ロー」である。

- ・タローガ テガミオ {カクダロー／カクロー}。(太郎が手紙を書くだろう。)
- ・タローワ トナリノ ヘヤニ {イルダロー／イルロー}。(太郎は隣の部屋にいるだろう。)
- ・タローガ イレバ モット ニギヤカン {ナルダロー／ナルロー}。(太郎がいれば、もつとにぎやかになるだろう。)
- ・ハナコモ ソノ バングミオ {ミルダロー／ミルロー}。(花子もその番組を見るだろう。)

う。)

- ・ハナコワ ハー ジキニ ココニ {クルダロー/クルロー}。(花子はもうすぐここに来るだろう。)
- ・タローワ コイカラ シゴトオ {スルダロー/スルロー}。(太郎はこれから仕事をするだろう。)

「死ぬ」においては、断定非過去形「シヌ」の「ヌ」の母音「ウ」が脱落して「シン」となった形に「ダロー」が後接している。

- ・コノ キンギョワ ハー スグ {シンダロー/シヌロー}。(この金魚はもうすぐ死ぬだろう。)

当地では「断定非過去形+ロー」がさまざまな動詞で優勢形として表れ、使用の多い形式と見受けられる。

- ・モシ コノ キンギョガ シネバ タローガ セツナガルロー。(もしこの金魚が死ねば、太郎が悲しむだろう。)
- ・ハナコガ クレバ ミンナ ヨロコブロー。(花子が来れば、みんな喜ぶだろう。)
- ・どうか、こんにゃとぼん、とめてもろわん ねえろうか。(どうか、今夜一晩、泊めてもらえないだろうか。)[民話：サバ売り]

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、多段型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。一段型動詞は「ミル」など「基幹+ル」、「来る」「する」は「ウ段形+ル」で「クル」「スル」となる。「居る」にあたる存在動詞は断定非過去形と同様の音韻上の理由で「オル」が出現する。

〈断定非過去形〉も参照のこと。

- ・フデデ テガミオ カク ヒトモ {オル/イル (〜エル)}。(筆で手紙を書く人もいる。)
- ・ジキ シヌ イキモンオ カウナ。(すぐに死ぬ生き物を飼うな。)
- ・テレビオ ミル トキワ モット ハナレレヤ。(テレビを見る時は、もっと離れる。)
- ・ハナコガ クル ヒワ イツダイ。(花子が来る日はいつだ。)
- ・コイカラ シゴトオ {スル/シル} ヒトモ {オル/イル (〜エル)}。(これから仕事をする人もいる。)

- ・タローガ {オル/イル (〜エル)} トキ。(太郎がいるとき。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。

- ・コノ ホンオ カイト ヒトニ アッタ。(この本を書いた人に会った。)
- ・シンダ キンギョオ ウメル。(死んだ金魚を埋める。)
- ・タローガ イタ トキ。(太郎がいたとき。)
- ・テレビオ ミタ ヒトカラ レンラクガ アッタ。(テレビを見た人から連絡があった。)
- ・ハナコガ キタ ヒワ イツダッタカノー。(花子が来た日はいつだったかなあ。)
- ・キンナ シゴトオ シタ ヒトモ {オル/イル (〜エル)}。(昨日仕事をした人もいる。)

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「テ」を後接する。

- ・ハナコガ テガミオ カITE タローガ エオ カイト。(花子が手紙を書いて、太郎が絵を描いた。)
- ・カッテイタ キンギョガ シンデ ミジョゲダッタ。(飼っていた金魚が死んで、かわいそうだった。)
- ・イマ ナカニ タローガ ITE ハナコニ ベンキョーオ オシエテル。(今、中に太郎がいて、花子に勉強を教えている。)
- ・アサワ ニュースオ ミテ ヒルワ ドラマオ ミル。(朝はニュースを見て、昼はドラマを見る。)
- ・マズ ハナコガ キテ ソイカラ タローガ キタ。(まず花子が来て、それから太郎が来た。)
- ・マズ シゴトオ シテ ソイカラ バンメシオ クッタ。(まず仕事をして、それから夕食を食べた。)

〈假定形〉

多段型動詞はエ段形に「バ」、一段型動詞と「来る」は基幹に「レバ」を後接する。「する」ではエ段

「セ」か長音形「セー」に「バ」を後接する。

- ・イマカラ テガミオ カケバ マニアウ。(今から手紙を書けば、間に合う。)
- ・モシ コノ キンギョガ シネバ タローガ セツナガルロー。(もしこの金魚が死ねば、太郎が悲しむだろう。)
- ・タローガ イレバ モット ニギヤカン {ナルダロー/ナルロー}。(太郎がいれば、もつとにぎやかになるだろう。)
- ・コノ バングミオ ミレバ カンガエガ カワルカモシレンノー。(この番組を見れば、考えが変わるかもしれないなあ。)
- ・ハナコガ クレバ ミンナ ヨロコブロー。(花子が来れば、みんな喜ぶだろう。)
- ・ほうせば、こんだ、火のかんさま、甘酒わかそうか、から酒わかそうか。(そうすれば、今度は、火の神様、甘酒を沸かそうか、辛い酒を沸かそうか。)[民話：サバ売り]
- ・キョー コノ シゴトオ セーバ アシタワヤスメル。(今日この仕事をすれば、明日は休める。)

〈否定形〉

多段型動詞はア段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」はオ段形「コ」に、「する」はイ段形「シ」に「ナイ」もしくはその音変化形「ネー」「ネ」が付く。「ネー」もしくは「ネ」による表現が多用され、「ナイ」によるものは共通語的な形といえる。

- ・テガミオ {カカナイ/カカネー}。(手紙を書かない。)
- ・コノ キンギョワ ジョーヤ シナネー。(この金魚はまだ死なない。)
- ・キョーワ タローガ イネー。(今日は太郎がいない。)
- ・オラ アンマリ テレビワ ミネー。(私はあまりテレビを見ない。)
- ・キョーワ ハナコワ ココニ コネー。(今日は花子はここに来ない。)
- ・キョーワ シゴトオ {シネー/シネ}。(今日は仕事をしない。)

否定形の活用を「見る」で代表させて下に示す。

断定非過去・連体非過去形 ミネー

断定過去・連体過去形 ミネカッタ

意志形 ミネー

推量形 ミネーダロー、ミネロー (多)

中止形 ミネーデ

仮定形 ミネーバ

なる形 ミナクナル

- ・オラ キンナ テレビオ イッソ ミネカッタ。(私は昨日テレビを全然見なかった。)
- ・タローワ アノ バングミオ {ミネーダロー/ミネロー}。(太郎はあの番組を見ないだろう。)
- ・キョーワ アサノ ニュースオ ミネーデ ウチオ デタ。(今日は朝のニュースを見ないで家を出た。)
- ・タローワ テレビモ ミネーデ シゴト シテラー。(太郎はテレビも見ないで仕事をしているよ。)
- ・タローワ テレビノ ニュースモ ミネーデ オーゴッタ。(太郎はテレビのニュースも見なくて、困る。)
- ・モシ タマタマ ソトオ ミネーバ アメガフッテルナンテ {ワカランカッタ/シランカッタ}。(もしたまたま外を見なければ、雨が降っていることに気づかなかった。)
- ・ダンダン テレビオ ミナクナル。(だんだんテレビを見なくなる。)

否定意志では「シヌマイ」など「断定非過去形+マイ」が用いられることもある。

- ・ケッシテ シヌマイ。(決して死ぬまい。)

上に述べてきたように、当地は否定形に「ナイ・ネー・ネ」を用い、否定表現の東西対立分布でみれば東日本方言の否定形式による地域であるが、西日本方言の否定形式「ン」による表現も表れる。

- ・キンギョワ エサ ヤラント ハヤ シヌゾー。(金魚は餌をやらないとすぐ死ぬよ。)
- ・ロクニ セワ シント キンギョオ シナセル。(ろくに世話をしないと、金魚を死なせる。)
- ・クダラン バングミオ ミンナ。(くだらない番組を見るな。)
- ・タローワ テガミオ カカダロー。(太郎は手紙を書かないだろう。)
- ・コノ キンギョワ ジョーヤ マダ {シナ

シダロー／シナンロー。} (この金魚はたぶんまだ死なないだろう。)

- ・コノ バングミオ ミレバ カンガエガ カワルカモシレンノー。(この番組を見れば、考えが変わるかもしれないなあ。)
- ・タマタマ ソトオ ミネーバ アメガ フッテルナンテ {ワカラシカッタ／シランカッタ}。(もしたまたま外を見なければ、雨が降っていることに気づかなかった。)
- ・だれのお茶も飲まんと。(誰のお茶も飲まないんだって。)[昔話：おっぱの皮]

〈丁寧形〉

丁寧形は使われず、断定非過去形で表現する。

〈使役形〉

多段型動詞ではア段形に「セル」が後接する。一段型動詞では基幹に「サセル」が後接する。「来る」ではオ段形「コ」に「サセル」が後接する。「する」ではア段形「サ」に「セル」が後接する。一段型に準じた活用をする。

- ・ナマエオ カカセル。(名前を書かせる。)
- ・ロクニ セワ シント キンギョオ シナセル。(ろくに世話をしないと、金魚を死なせる。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ ミサセル。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・ハナコオ ココニ コサセル。(花子をここに来させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サセル。(太郎に一人で仕事をさせる。)
- ・ハナコオ ココニ コサセレヤ。(花子をここに来させるよ。)

〈受身形〉

多段型動詞ではア段形に「レル」が後接する。一段型動詞では基幹に「ラレル」が後接する。「来る」ではオ段形「コ」に「ラレル」が後接する。「する」ではア段形「サ」に「レル」が後接する。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・イエノ ヘーニ キッタネー エオ {カカレル／カカレタ}。(家の塀に汚い絵を{描かれる／描かれた}。)
- ・ワケー ウチニ オヤニ シナレル。(若いうちに親に死なれる。)

- ・タローニ ナガイ アイダ ヘヤニ イラレル。(太郎に長い間部屋にいられる。)
- ・コロシダ トコオ タローニ ミラレル。(転んだところを太郎に見られる。)
- ・ハナコニ コラレタシダンガ メーワクダッタ。(花子に來られたので、迷惑だった。)
- ・タローニ ヒドイ コトオ サレル。(太郎にひどいことをされる。)

〈可能形〉

肯定形と否定形で形が異なる。可能形としては複数の語形が表れるが、能力可能、状況可能、心情可能など意味合いによって区別した使い分けはなく、可能形として汎用できる。

可能形を肯定形・否定形に分けて記す。臨地調査で得た形のほかGAJから補った形がある。

	肯定形	否定形
多段型 「書く」	①エ段＋ル 「カケル」 ②ア段＋レル 「カカレル」	左①の否定形 「カケネー」 左②の否定形 「カカンネー」
一段型 「見る」	①基幹＋レル 「ミレル」 ②基幹＋ラレル 「ミラレル」	左①の否定形 「ミレネー」 左②の否定形 「ミランネー」
「来る」	①オ段＋レル 「コレル」 ②オ段＋ラレル 「コラレル」	左①の否定形 「コレネー」 左②の否定形 「コランネー」
「する」	デキル	デキネー

全てで、一段型動詞に準じた活用をする。

表中、肯定形①の語に、終助詞「ワ」が付きそれが融合した「ラー」になる形 (ru+wa→raa) である「カケラー」などが表れる。「来る」では②「コラレル」も「コラレラー」が表れる。

「する」の可能形は代替動詞「デキル」とその否定形「デキネー」を用いる。

- ・コノ コワ マダ チーサイドモ カンジガ カケル。(この子はまだ小さいけれども、漢字が書ける。)
- ・コノ コワ マダ チーサイカラ カンジガ {カケネー／カカンネー}。(この子はまだ小

- さいので、漢字が書けない。)
- ・ココワ アカルインダング ジガ チャント {カケル/カケラー}。(ここは明るいので、字がちゃんと {書ける/書けるよ}。)
 - ・ココワ クラインダング ジガ チャント {カケネー/カカンネー}。(ここは暗いので、字がちゃんと書けない。)
 - ・コノ {ホーホーダバ/ホーホーナラ} ラクニ シネル。(この方法なら楽に死ぬる。)
 - ・ドッケン ホーホーデモ ラクニャー シネネー。(どんな方法でも楽には死ぬない。)
 - ・コドモノ コトオ オモート シンパイデ サキニワ シネネー。(子供のことを思うと、心配で先には死ぬない。)
 - ・ハー コドモモ イッチョメーニ ナツタンダング オラ アンシンシテ {シネル/シネラー}。(もう子供も自立したから、私は安心して {死ぬる/死ぬるよ}。)
 - ・タローワ イッチョメーダング ナガイ アイダ ヒトリデ {イラレル/イラレルロー}。(太郎はしっかりしているので、長い間一人で {いられる/いられるだろう}。)
 - ・タローワ チーサインダング ソッケ ナガイ アイダ ヒトリデ {イランネー/イランネーロー}。(太郎は小さいので、そんな長い間一人で {いられない/いられないだろう}。)
 - ・ココワ サブスギテ イップンモ イランネー。(ここは寒すぎて、一分もいられない。)
 - ・イマノ ジキワ アツカインダング ズット ソトニ {イラレル/イラレラー}。(今の時期は暖かくて、ずっと外に {いられる/いられるよ}。)
 - ・ソノ エーガワ エキマエノ エーガカンデ {ミレル/ミラレル}。(その映画は駅前の映画館で見られる。)
 - ・ソノ エーガワ コノ アタリノ エーガカンジャー {ミレナイ/ミレネー}。(その映画はこの辺の映画館では見られない。)
 - ・ハナコワ チーサイドモ シッカリシテルンダング ヒトリデ エーガオ {ミレル/ミレラー}。(花子は小さいがしっかりしている
- ので、一人で映画を {見られる/見られるよ}。)
 - ・ハナコワ チーサインダング ヒトリデ エーガオ ミレネー。(花子は小さいので、一人で映画を見られない。)
 - ・ハナコワ ミチオ シッテルンダング ヒトリデ {コラレル/コラレラー/コレル/コレラー}。(花子は道を知っているので、一人で {来られる/来られるよ}。)
 - ・ハナコワ ミチオ シラネンダング ヒトリジャー コランネー。(花子は道を知らない
- ので、一人では来られない。)
 - ・エキカラ チカインダング アルイテモ {コラレル/コラレラー/コレル/コレラー}。(駅から近いので、歩いても {来られる/来られるよ}。)
 - ・エキカラ トーインダング アルイチャ コランネー。(駅から遠いので、歩いては来られない。)
 - ・タローワ メンキョオ モッテルンダング ヒトック コノ シゴトガ {デキル/デキラー}。(太郎は免許を持っているので、一人でこの仕事が {できる/できるよ}。)
 - ・タローワ メンキョオ モッテネーインダング ヒトックデ コノ シゴトガ デキネー。(太郎は免許を持っていないので、一人でこの仕事ができない。)
 - ・キカイガ ブッコーレテルンダング キョーワ シゴトガ デキネー。(機械が壊れているので、今日は仕事ができない。)
 - ・キカイガ ナオツタンダング キョーワ シゴトガ デキル。(機械が直ったので、今日は仕事ができる。)
 - ・お前のような、きったねえばさに、何ができる。(お前のような、汚い婆に、何ができる。)
- [昔話：おっぱの皮]
- 〈尊敬形〉
尊敬形は使われず、尊敬要素を含まない断定非過去形や断定過去形で表現するのが一般的である。
- 〈継続形〉
進行、結果、習慣は「テイル」、その縮約形の「テル」、「テル」で表される。終助詞「ワ」が付いて融

合した「テラー・テラ」となることもある。これらは多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段形「キ」「シ」に後接する。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・タローワ イマ テガミオ カイテイル。(太郎は今、手紙を書いている。)
- ・タローワ モー サンサツ ホンオ カイテラー。(太郎はもう三冊本を書いているよ。)
- ・キンギョガ シンデラー。(金魚が死んでいるよ。)
- ・ハナコワ イマ テレビオ {ミテル/ミテラー}。(花子は今テレビを{見ています/見ていますよ}。)
- ・ハナコワ ハー ソノ エーガオ {ミテル/ミテラー}。(花子はもうその映画を{見ています/見ていますよ}。)
- ・ハナコワ キンナカラ ココニ キテラー。(花子は昨日からここに来ているよ。)
- ・ハナコワ イマ デンシャデ コッチニ キテラー。(花子は今、電車でこちらに来ているよ。)
- ・ハナコワ ジット ココエ {キテラ/キテラー}。(花子はいつもここに{来ている/来ているよ}。)
- ・タローワ キンナカラ コノ シゴトオ シテル。(太郎は昨日からこの仕事をしている。)

将然は「ソーダ」で表現される。多段型動詞のイ段形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段形「キ」「シ」に後接する。

- ・コノ キンギョワ シニソーダ。(この金魚は死にそうだ。)

〈希望形〉

多段型動詞はイ段形、一段型動詞は基幹、「来る」「する」のイ段形「キ」「シ」に「タイ」、「テー」を後接させる。「テー」の使用が多く、「タイ」は共通語的な形である。終助詞「ワ」、その異形態の「ヤ」などが付く。形容詞型の活用をする。

- ・フデジャ ナクテ エンピツデ カキテー。(筆ではなく鉛筆で書きたい。)
- ・ツラクテ ハー シニテーヤ。(つらくてもう死にたいよ。)

- ・イツマデモ ココニ {イテー/イテーヤ}。(いつまでもここに{いたい/いたいよ}。)
- ・オラ ヤキューチャーケーガ ミテー。(私は野球中継が見たい。)
- ・マタ ココニ キテー。(またここに来たい。)
- ・ミンナデ コノ シゴトオ {シタイ/シテ}。(みんなでこの仕事をしたい。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「ガンダ」が後接する。

- ・オレガノムガンダ。(おれが飲むのだ。)[講座]
 - ・「どご行ぐガンだ」「山行ぐガンだ」(「どこへ行くのだ」「山へ行くのだ」)[全国]
 - ・かん桶をかついでくるがんだと。(棺桶をかついでくるのだって。)[昔話：法印と狐]
 - ・狐をひっぱりだしての一、いけどりにしてしまったがんだと。(狐を引き出してなあ、生け捕りにしてしまったのだって。)[魚沼：狐火事]
 - ・嬢がとめるがんだども、エエテいうことを聞かんで、その日も出かけたと。(妻がとめたのだけれども、どうしても言うことを聞かないで、その日も出かけたって。)[昔咄：弥三郎婆さ]
 - ・いってえどうなっているがんだろう。(いったいどうなっているのだらう。)[昔咄：弥三郎婆さ]
 - ・コトんと寝るがんだてんがのう。(ことんと寝るのだったそうだ。)[昔咄：鯖売りの話]
- 臨地面接調査で得られた「カクンダ」は共通語的な形と推測される。
- ・マンネンヒツ アル? センセーニ テガミオ カクンダ。(万年筆ある?先生に手紙を書くんた。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。断定過去形、連体過去形、推量形で、動詞に準じた活用をする。

〈断定非過去形〉

連体非過去形と同形で、語幹に「イ」を付す形をとる。語幹末が[a]、[u]の語は、語幹末尾音と「イ」が融合した形式を持つ。

- ・コノ トマトワ {アカイ/アケー}。(このトマトは赤い。)
- ・アノ ヒトワ セガ {タカイ/タケー}。(あの人は背が高い。)
- ・カラダノ グアイガ {ワルイ/ワリー}。(体の具合が悪い。)
- ・ユキガ {シロイ/×シレー}。(雪が白い。)

〈断定過去形〉

「アカカッタ」など、語幹に動詞的な接辞「カッタ」を付す。

- ・キンナ カッタ トマトワ アカカッタ。(昨日買ったトマトは赤かった。)

〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」を付す形式と、「ロー」を付す形式がある。「ロー」は語幹末尾音と「イ」が融合した形式に付く。

- ・コノ トマトワ {アカイダロー/アケーダロー/アケーロー/×アカイロー}。(このトマトは赤いだろう。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、語幹に「イ」を付す形をとる。語幹末が[a]、[u]の語は、語幹末尾音と「イ」が融合した形式を持つ。

- ・{アカイ/アケー} トマトオ カウ。(赤いトマトを買う。)
- ・セノ {タカイ/タケー} ヒトダ。(背の高い人だ。)
- ・カラダノ グアイガ {ワルイ/ワリー} ヒトガ {オル/イル (～エル)}。(体の具合が悪い人がいる。)
- ・{シロイ/×シレー} ユキ。(白い雪。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、語幹に動詞的な接辞「カッタ」を付す。

- ・キンナマデ アカカッタ ミガ クロクナッタイヤー。(昨日まで赤かった実が、黒くなってしまった。)

〈中止形〉

語幹に「クテ」を付す。

- ・コノ カミワ アカクテ アノ カミワ シロイ。(この紙は赤くて、あの紙は白い。)
- ・シナモノガ ネクテ コマル。(品物がなくて

困る。)

- ・コノ ニモツワ オモテクテ コマル。(この荷物は重たくて困る。)

〈假定形〉

假定形は語により出現する形がさまざまである。

「赤い」では、二つの形が見える。一つは「アケケレバ」のように語幹末尾音と「イ」が融合した形式の短呼形「アケ」に「ケレバ」を後接した形式、もう一つは「アケーバ」のように語幹末尾音と「イ」が融合した形に「バ」を後接した形式である。後者の方が多用される。

- ・モシ ハー ミガ {アケケレバ/アケーバ} トロー。(もしもう実が赤ければ、採ろう。)

「高い」は語幹末が[a]である点「赤い」と同じだが、「タケーバ」のような語幹末尾音と「イ」が融合した形に「バ」を後接した形式と、「タカケバ」のような語幹に「ケバ」が後接した形式が現れる。

- ・セガ {タケーバ/×タケケレバ} トドクヨ。(背が高ければ届くよ。)

- ・タカケバ [GAJ3-143「高ければ(假定形1)」]

語幹末が[o]の「白い」では、「シロイバ」のような語幹に「バ」が後接した形式が現れる。

- ・イロガ シロイバ イーノニ。(色が白ければいいのに。)

語幹末が[u]の「悪い」では、調査では「ワルケリヤ」のような語幹に「ケリヤ」が後接した形が得られた。

- ・グアイガ ワルケリヤ ヤメヨー。(具合が悪ければやめよう。)

以上のように、体系としての規則性記述には未だ不十分で明らかではない。

〈否定形〉

語幹に「ク」を付し、さらに「ナイ」もしくは「ネー」を後接させる。形容詞に準じた活用をする。

- ・マダ ミガ {アカクナイ/アカクネー}。(まだ実が赤くない。)

- ・シナモノガ {ネクナイ/ネクネー}。(品物が無くない。)

- ・コノ ニモツワ {オモテクナイ/オモテクネー}。(この荷物は重たくない。)

〈なる形〉

語幹に「ク」を付し、さらに多段型動詞「ナル」

を後接させる。

- ・ハー ジキ ミガ アカクナル。(もうすぐ実が赤くなる。)
- ・シナモノガ ネクナル。(品物が無くなる。)
- ・ホメラレタンダンガ ウレシクナッタ。(ほめられたので嬉しくなった。)
- ・ミズオ スタンダンガ オモテクナッタ。(水を吸ったので、重くなった。)

〈丁寧形〉

断定非過去形に「デス」を後接させるが、使用は非常に少ない。通常は丁寧形を用いず、断定非過去形が使われる。

- ・コノ トマトワ {アケーデス／アケー}。(このトマトは{赤いです／赤い}。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「ガンダ」を後接させる。「ガンダ」は「ガダ」のように発音される例も見られる。これらは現在では使用が少ない。「赤い」でもこれにあたる形「アケーガンダ」があると思われるが、今回の調査では確認されなかった。先行研究の記述からは、かつては形容詞において「連体非過去形+ガンダ」が生産的に使用されていたと推測される。

- ・泳ぐがんがはえーがだと。(泳ぐのが早いのだと。)[魚沼：まぼろしの鮭]

現在は「ンダ」を後接させる形式が多く、動詞と同様、共通語的な形として使われると推測される。

- ・コノ トマトワ ナカマデ アケーンダヨ。
クッテミレヤ。(このトマトは中まで赤いんだよ。食べてみて。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語と名詞述語はほぼ同様の活用をする。

指定辞(いわゆる断定の助動詞)は「ダ」を用いる。新潟県内では中越北部方言(越後平野部方言)を中心に「ダ」が「ラ」に交替する音変化が見られるが、当地ではその現象はない。

〈断定非過去形〉

形容名詞、名詞に「ダ」を後接する。

- ・コノ ヘヤワ シズカダ。(この部屋は静かだ。)
- ・タローワ マダ ガクセーダ。(太郎はまだ学生だ。)

〈断定過去形〉

連体過去形と同形で、形容名詞、名詞に「ダッタ」が後接する。

- ・アノ ヘヤワ シズカダッタ。(あの部屋は静かだった。)
- ・キョネンナワ タローワ マダ ガクセーダッタ。(去年は太郎はまだ学生だった。)

〈推量形〉

形容名詞、名詞に「ダロー」が後接する。

- ・アッチワ モット シズカダロー。(向こうはもっと静かだろう。)
- ・タローワ マダ ガクセーダロー。(太郎はまだ学生だろう。)

〈連体非過去形〉

形容名詞述語は、形容名詞に「ナ」を後接する。

名詞述語は、名詞に「ノ」を後接する。

- ・シズカナ ヘヤニ {オル／イル (～エル)}。
(静かな部屋にいる。)
- ・イマモ ガクセーノ トモダチ。(今も学生である友達。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、形式名詞述語、名詞述語とも「ダッタ」を後接する。

- ・サッキマデ シズカダッタ ヘヤガ ウルサクナッタ。(さっきまで静かだった部屋がうるさくなった。)
- ・キョネンナマデ ガクセーダッタ トモダチ。
(去年まで学生だった友達。)

〈中止形〉

形容名詞、名詞に「デ」が後接する。

- ・コノ ヘヤワ シズカデ アノ ヘヤワ ウルセー。(この部屋は静かで、あの部屋はうるさい。)
- ・タローワ ガクセーデ ハナコワ カイシャインダ。(太郎は学生で、花子は会社員だ。)

〈仮定形〉

形容名詞、名詞に「ダバ」が後接する。

- ・マワリガ モット シズカダバ ネムレルガンニ。(周りがもっと静かなら、眠れるのに。)
- ・モシ タローガ ガクセーダバ コノ シゴトワタノメネー。(もし太郎が学生なら、この仕事は頼めない。)

〈否定形〉

形容名詞、名詞に「ジャナイ」もしくは「ジャーネー」が後接する。「ジャーネー」の方が使用が多い。「ナイ」「ネー」は形容詞である。

- ・コノ ヘヤワ アンマリ {シズカジャナイ / シズカジャーネー}。(この部屋はあまり静かではない。)
- ・タローワ {ガクセージャナイ / ガクセージャーネー}。(太郎は学生ではない。)

〈なる形〉

形容名詞、名詞に「ニ」を付し、さらに「ナル」を後接させる。「ニ」は撥音便形「ン」になることがある。

- ・ハー ジキ {シズカニナル / シズカンナル}。(もうすぐ静かになる。)
- ・センモンガッコノ {ガクセーニナル / ガクセーニナル}。(専門学校の学生になる。)

〈丁寧形〉

形容名詞、名詞に「デス」を後接させるが、使用は非常に少ない。通常は丁寧形を用いず、断定非過去形が使われる。

- ・コノ ヘヤワ {シズカデス / シズカダ}。(この部屋は {静かです / 静かだ}。)
- ・タローワ {ガクセーデス / ガクセーダ}。(太郎は {学生です / 学生だ}。)

〈のだ形〉

形容名詞、名詞に「ガンダ」を後接させる。「ガンダ」に前接する音によっては「ンガンダ」と「ン」を介することもあるようである。これらは現在では使用が少なく、「静か(だ)」でもこれにあたる形「シズカガンダ」、「学生(だ)」でもこれにあたる形「ガクセーガンダ」があると推測されるが、今回の調査では確認されなかった。先行研究の記述からは、かつては「形容名詞/名詞+ガンダ」が生産的に使用されていたと推測される。

- ・そっけんがんにゃねーて、これがのー、かわうそどもがんだて。(そのようなのではないって、これがなあ、かわうそたちなんだって。)
[魚沼：まぼろしの鮭]
- ・万年ろうそくてがんな、いつまでもいつまでも燃えて、火が消えねえろうそくんがんだと。(万年ろうそくというのは、いつまでもいつまでも燃えて、火が消えないろうそくなのだ

って。)[昔咄：弥三郎婆さ]

現在は「ナンダ」を後接する形式が多く、形容詞と同様、共通語的な形として使われる。

- ・アッチノ ヘヤガ イーヨ、ワリト シズカナンダ。(向こうの部屋がいいよ。結構静かなんだ。)

名詞述語は、臨地面接調査ではのだ形にあたる意味合いに「ガクセーダンダンガ」(学生だから)のような原因理由表現が表れた。

- ・タローニワ タノメネーヨ、マダ ガクセーダンダンガ。(太郎には頼めないよ。まだ学生なのだから。)

用例出典

魚沼：魚沼市文化協会(2009)『魚沼方言かるた 魚沼の昔ばなし』魚沼市文化協会

講座：剣持隼一郎(1983)「新潟県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学6 中部地方の方言』国書刊行会

全国：大橋勝男(2009)「新潟県」佐藤亮一編『都道府県別全国方言事典 CD付き』三省堂

民話：水澤謙一編(2017)『[新版]日本の民話70 越後の民話 第二集』未來社(1978年に初版刊行)

昔話：水澤謙一編(1974)『日本の昔話8 越後の昔話』日本放送出版協会

昔咄：山田左千夫(2002)『方言で読む 越後 魚沼の昔咄』野島出版

参考文献(用例出典と重なるものは略)

大橋勝男編著(2003)『新潟県方言辞典』おうふう
大橋純一(2005)「総説」『日本のことばシリーズ15 新潟県のことば』明治書院

加藤正信(1961)「新潟(三 方言の実態と共通語化の問題点11)」『方言学講座2 東部方言』東京堂
国立国語研究所編(1991)『方言文法全国地図2』大蔵省印刷局

国立国語研究所編(1994)『方言文法全国地図3』大蔵省印刷局

国立国語研究所編(1999)『方言文法全国地図4』大蔵省印刷局

東條操(1953)『日本方言学』吉川弘文館

(吉田雅子)